

群馬県立尾瀬高等学校 自然環境科

〒378-0301 群馬県沼田市利根町平川 1 4 0 6

TEL : (0278) 56-2310 FAX : (0278) 56-3720

URL : <http://www.nc.oze-hs.gsn.ed.jp> E-mail : oze-hs01@edu-g.gsn.ed.jp

尾瀬高校の目指すもの

尾瀬高校では、「**自然との共生**」を図ることのできる人づくりを目指しています。そのためには、知識を詰め込むだけの学習ではなく、豊かな自然の中で人間と自然との関わりについて考えることが必要です。様々な出会いを通して人と人とのつながりの大切さを学び、コミュニケーション能力・自己表現力を高め、実社会で通用する力を身に付けた人間を育成していきます。

志願して欲しい生徒像

- 郷土を愛し、地域社会の発展に貢献したい人
- 尾瀬高校の特色を理解し、高校生活に対し明確な目的意識を持った人
- 様々な体験学習を通して、豊かな教養を身に付け、自己表現力を高めたい人

尾瀬高校の特色

- 自分のペースで着実に学力を向上させることができます。少人数・習熟度別授業を通して、得意な教科の学力はさらに伸ばし、苦手な教科もじっくりと学習することができます。
- 教員一人あたりの生徒数は6人です。きめ細やかな支援体制が整っています。
- すべての生徒の能力を伸ばす、特色ある教育活動（体験学習、地域活性化プロジェクトなど）を行っています。

尾瀬ハートフルホーム・システム

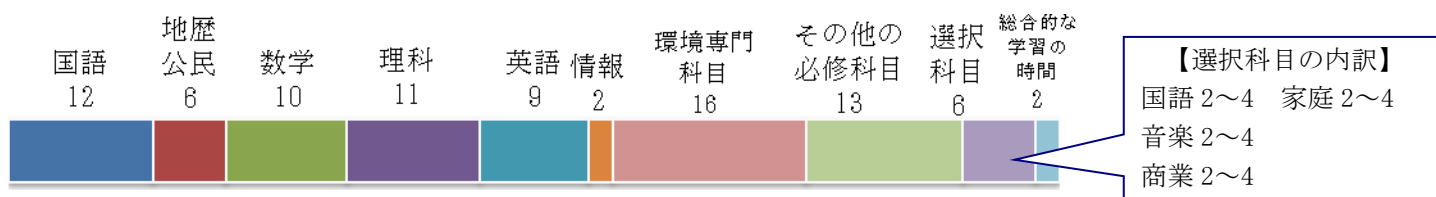
自然環境科の特色ある教育（課外活動での環境に関する体験学習を含む）を受けたい人で、自宅からの通学が困難（公共の交通機関利用で約2時間以上）な人に対しては、ホームステイ制度（下宿生活）を用意しています。生活アドバイザー（生活指導員）等のサポートを受けて、30名前後がこの制度を利用しています。

定員32名 2年次より環境科学コース・自然環境コースの2コース制（平成30年度入学生の履修単位数）

環境科学コース 主に大学進学を目指す生徒のためのコースで、数学、英語を多く学習します。



自然環境コース 様々な教科の学習や体験学習を通して、社会に対応できる実践力を身に付けたい生徒のためのコースです。



自然環境科卒業生の主な進路（過去5年間）

国公立大学	私立大学	専門学校	就職
信州大学理学部生物科学科、茨城大学理学部理学科、新潟大学農学部生産環境学科、福島大学理工学群共生システム理工学類（3名）、北海道教育大学教育学部芸術スポーツ文化学科、群馬県立女子大学国際コミュニケーション学部	北里大学獣医学部生物環境科学科、日本大学生物資源科学部、日本大学理工学部、東京農業大学地域環境科学部森林総合科学科（5名）、東京農業大学生物産業学部アクアバイオ学科、東京農業大学農学部生物資源開発学科、東海大学海洋学部（2名）、駿河台大学心理学部、國學院大学神道文化学部、関東学園大学経済学部、千葉商科大学商経学部、高崎商科大学商学部、東京福祉大学社会福祉学部、酪農学園大学農食環境学群、立正大学地球環境科学部、大東文化大学環境創造学部、東都医療大学ヒューマンケア学部看護学科 など	渋川看護専門学校、群馬パース福祉専門学校、中央情報経理専門学校、群馬県立農林大学校、東京環境工科専門学校、国際自然環境アウトドア専門学校、大泉保育福祉専門学校、群馬県立高崎産業技術専門学校、群馬自動車大学校、群馬調理師専門学校 など	片品村役場、航空自衛隊、日本郵便(株)、佐川急便(株)、セコム上信越(株)、沼田脳神経外科循環器科病院、角田外科医院、花咲の湯、(株)ブルボンなど

自然環境科における環境教育

－自然との共生を図ることのできる人づくり－

群馬県立尾瀬高等学校

＜尾瀬高校の環境教育の目的・目標＞

多様で複雑な環境問題を理解し、解決に向けて行動するためには、問題を全体的に捉える必要があり、環境に関する知識の習得に加え、感性や倫理観、多面的に物事を考え自ら課題を見つける能力、問題を多角的に分析する能力、様々な主体間の調整を行うために互いにコミュニケーションを図る能力などを育成していくことが必要です。

このため、「体験を通じて、自ら考え、調べ、学び、行動する」という過程を重視した学習を推進します。
(環境基本計画2000年より抜粋)

1. 基本理念（人づくりの目指すもの）

自然環境科では、多様な自然の中での自然観察や環境調査を通して、様々な課題を発見し解決する能力を身につけます。また、自然観察やキャンプなどの自然体験活動の実践を通して、豊かな感受性を磨くと共に、「自然とのふれあい」を啓発するためのコミュニケーション能力を高めます。

そして卒業後も、ライフワークの一部として「自然とのふれあい」を啓発する活動を続けて、自然環境(地球環境)の状態をできるだけ多くの人に正確に伝えられる人になることを目指します。

2. 独自の環境教育プログラム

(1) 重点項目

- ①多様な自然や人に接し、興味を持ち、課題を発見する。
- ②多様な自然や人の価値観に接し、多面性を理解する。
- ③自分の考えを持つ。状況に合わせた判断をする。討論する。
- ④自分の考えや自然からのメッセージをわかりやすく人に伝える。自己表現力や発表能力を高める。
(インタープリテーション能力、プレゼンテーション能力を高める。)

(2) 環境専門科目（学校設定科目）とその概要（平成30年度入学生）

	科目名（単位数）	概要
第1学年	総合尾瀬Ⅰ (2)	様々な自然や施設での校外実習を通して、尾瀬の自然を理解する。 (多様な自然を知ることから、尾瀬の特色を理解する。)
	環境実践Ⅰ (2)	野外実習で必要とされる基本的な技術を身につける。 (コンパスワーク、安全対策、観察・記録技術を中心とする。)
第2学年	環境測定 (2)	自然環境調査・研究の計画を立て、その結果を分析する。
	環境実践Ⅱ (1) 総合尾瀬Ⅱ(選択2)	植生や水質、野鳥など自然環境の調査技術を身につける。 調査結果を表計算ソフト、画像処理ソフトなどを用いて整理し、その情報を広く発信する。(尾瀬情報センターWEBページなどに掲載)
第3学年	野外の活動 (3)	自然体験の啓発活動としての自然観察会などを計画・実施する。
	環境実践Ⅲ(選択2) 環境の保全(選択2)	生物の飼育・栽培、自然植物園の維持・管理を行う。 環境問題を科学的・社会的な側面から探究する。

※課題研究(2)を2年次に履修し、自然環境に関わる課題を設定し、調査や研究活動を行います。

※総合的な学習の時間(2)を3年次に履修し、2年次の「課題研究」と連動した授業を行います。

(3) 各学年における校外実習の概要

	実習概要	実習名と実習地
第1学年	多様な環境・施設における複数講師による観察・見学指導	吹割の滝実習、武尊山実習(春・秋・冬)、尾瀬実習(尾瀬ヶ原・尾瀬沼)、県有施設実習(ぐんま昆虫の森、自然史博物館、ぐんま天文台) シラネアオイ保護・復元実習(播種)、オリエンテーリング実習(北毛青少年自然の家)、野鳥観察実習(前橋敷島公園)、玉原高原雪上実習(カンジキ)
第2学年	グループワークでの調査活動(水質・植物・哺乳類・鳥類・雪等)と環境測定	尾瀬実習(尾瀬ヶ原水質調査、至仏山登山道調査、アヤマ平植生調査)、吹割の滝・鎌田実習(野鳥を中心に) シラネアオイ保護・復元実習(移植:日光白根山)、武尊山自然環境調査実習(春・秋・冬)、亜熱帯林カヌー体験(沖縄)、玉原高原雪上実習(スノーシュー)
第3学年	インタープリテーション(IP:自然解説)と環境系ボランティア、自然体験活動の実施	吹割の滝IP実習(高1対象)、植林育樹実習、尾瀬IP実習(小6対象:尾瀬ヶ原)、キャンプ実習(溪流釣り、ナイトハイク、野外炊飯)、シラネアオイ保護・復元実習(採種:日光白根山)、武尊山IP実習(中2対象)、自然体験プログラム実習(中1対象:プログラム作成・実践)、野鳥観察IP実習(高3対象:前橋敷島公園)、玉原高原雪上IP実習(外部講師対象:山スキー)

(4) 環境関連行事（外部連携で約100講座実施）

G-n-e-cネイチャークラブ(自然体験、食と農、伝統文化の継承、世代間交流)、地域の学校開放講座、武尊山「水源の森」ハイキング、玉原高原ハイキング、夏季公開講座、環境ボランティア、尾瀬サイエンス・フォーラム、ウインターフェスタ自然環境科、全国高校生自然環境サミット、尾瀬学習支援、他校合同尾瀬研修会・交流会、武尊山水源の森調査、尾瀬調査、片品川調査、県内各地で開かれる環境系イベントへの参加、海外視察団との交流 など